

W223a Nano-JASMINE データ解析の準備状況

山田 良透(京都大学)、Uwe Lammers(ESA)、Daniel Michelik(Lund 大学)、小林行泰、郷田直輝、矢野 太平、原拓司(国立天文台)、吉岡諭(海洋大)、穂積俊輔(滋賀大)、酒匂 信匡(信州大学)、中須賀真一(東京大学)

Nano-JASMINE は、2014 年 12 月から 2015 年 12 月の間に打ち上げ予定の日本の位置天文観測衛星である。データ解析では、ESA の大型位置天文観測衛星 Gaia 用に構築された core 解析ソフトウェア AGIS(Astrometric Global Iterative Solution) を、Nano-JASMINE 用に一部修正して用いる。AGIS の Nano-JASMINE 用の修正、および日本担当の Nano-JASMINE 用前処理プログラムを用いた end to end 試験が進行中である。本講演では、とくに前処理部分のプログラムの改良および評価について報告する。

Nano-JASMINE 衛星のデータ解析に関するコード開発については、2015 年 3 月 11 日にレビュー会を実施する予定である。これをもって、打ち上げ前の解析ソフトウェア開発はほぼ一段落し、以後は解析に関しては打ち上げ後のデータに基づくシステム同定作業と、打ち上げまでのコード開発作業は運用支援のためのソフトウェアの開発に重点を置くことになる。2013 年 12 月に打ち上げられた Gaia 衛星においても、打ち上げ後に様々な問題が明らかになっており、これらの経験を Nano-JASMINE に生かして、予想される問題点に関する準備も開始する予定である。これについても報告する予定である。